

RITA

利他の心で

教育を変える

仕事がおもしろくなる

vol.

11

地域
探求学習
Local Philosophy

利他のDNAを
世界へ、
そして未来へ

利他
RITA
LABO

R
RITSUMEIKAN



日本神話のふるさと高千穂郷の世界農業遺産、棚田。

Local
Philosophy
1

宮崎県高千穂町・五ヶ瀬町一高千穂高校・五ヶ瀬中等教育学校 世界農業遺産の価値を 受け継ぐための 学びをデザインする。

取材・文／金井文宏（本誌）

森林に囲まれ平地が少ない宮崎県北部の高千穂郷・椎葉山地域（高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、諸塚村、椎葉村）では、山腹水路のある棚田や国内唯一の焼畑など独特の農業が営まれています。また、広葉樹林・照葉樹林がモザイクのように鮮やかな景観を生み出す林業や、少数頭の牛を家族同様に育てる牧畜業も営まれてきました。この山間地では集落ごとに神楽を奉納することで互いの絆を深めてきました。

2015年には、伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一体的に維持保全していることが評価され、高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システムとして世界農業遺産（GIAHS※）に認定されました。この遺産を次世代に継承すべく、世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議

会と地元の高千穂高校・五ヶ瀬中等教育学校などと連携し「GIAHSアカデミー」を開講し、地域探求学習に取り組んでいます。



高校生と海外大生たちがグループワークで語り合う。

GIAHSアカデミーを運営するNPO法人グローバルアカデミーは、2019年7月、「GIAHSスタディツアー」を開催しました。高千穂高校と五ヶ瀬中等教育学校の生徒が、グローバルに活躍する日本人大学生とともに学び、地域の魅力や課題を発見・発信していくためのアクティブラーニング型学習プログラムです。これを例に、地域探求学習の進め方やあるべき姿について考えてみたいと思います。

GIAHSスタディツアーの流れ

世界農業遺産の現場で地域の魅力と課題を学び、地元高校生が県外・海外の大学生と未来を描く。

1日目

〔午後〕

●フィールドワーク①

柳田国男が探求した「山の民」の文化、椎葉村見学（椎葉民俗芸能博物館、鶴富屋敷―平家落人伝説）

●フィールドワーク②

夜狩内集落が復活させた焼畑の見学



夜狩内集落の焼畑の様子。

2日目

〔午前〕

●フィールドワーク③

霧立越えのガイド・秋本浩氏の講話「交易道と駄賃付け」

●地域理解のための講義

「森と人が育んできた原郷」

焼畑―縄文文化と、棚田―弥生文化

倉石寛先生（立命館大学）

〔午後〕

●フィールドワーク④

高千穂の山腹水路を作った先人の跡に学ぶ・棚田見学



地元高校生と海外・県外大学生たちの集合写真。



総延長500kmに及ぶ棚田の山腹水路。



高千穂の集落ごとに伝わる神楽を観る。



高千穂名物「かっぱ鶏」を作る。

●フィールドワーク⑤

高千穂神楽の鑑賞と担い手との交流

●フィールドワーク⑥

皆で作る高千穂名物「かっぱ鶏」

〔夜〕

●「留フェロ※」らじお

海外・国内大学の学びについて高校生から寄せられた質問に、生で答える

参加した地元高校生の感想

- 最初は修学旅行のような気分で楽しもうと思っていた。しかし実際はこの恵まれた土地でしかできない体験が多くあった。海外・県外からの大学生と触れ合う中で、学術的に、この地域の良さや特徴を学ぶことができた。
- スタディツアーでの活動を通して、私は次第に地域に貢献したいと思うようになった。例えば、「多言語化により外国人旅行者を増やしたい」、「過疎化を食い止めた」と。過疎化の進行は、自分たちが育ってきた地域の文化・歴史・伝統が失われるということだからだ。
- スタディツアーは海外研修も超えるくらいのインパクトがあった！人生が変わった！
- 今回のスタディツアーで色々な人と話せて選択肢が広がった。

●大学生プレゼン②

「少しでも興味が湧けば即行動する」

3日目

〔午前〕

●地元の若手のプレゼン

Uターンで活躍する若手に話を聞く

●ワークショップ

「28歳の自分を想像しよう」

〔午後〕

●発表会

「高校生が来年のGIAHSスタディツアーを企画する」

※海外留学中の日本人学生のNPO

世界農業遺産を地域探求学習のど真ん中に据える。



NPO 法人
グローカルアカデミー代表
田阪真之介さん

金井 まずは高千穂郷・椎葉山地域というGIAHSの学びが、地元の高校のカリキュラムや課外活動に取り入れられた経緯を教えてください。

田阪 この地域を世界農業遺産として登録するための最終審査の英語プレゼンが、ローマのFAO（国際連合食糧農業機関）でありました。プレゼンの前半は県知事が、後半は五ヶ瀬中等教育学校の高校生・宮崎麻由香さんがすることになりました。私には宮崎さんのプレゼン指導をしてほしいという依頼がありました。次第にGIAHSの内容にまで関わるようになっていきました。

というのも、世界農業遺産になった世界の多くの地域では、それを契機に観光ビジネスを始めるのですが、私は「高千穂では教育・教育人材に力を入れるべき」と考えたからです。棚田を潤す用水路も各地域に伝わる神楽もすばらしい教材で、世界農業遺産に登録されることにより、この地域の魅力や課題をしっかりと子どもたちに伝えられると思ったからです。

GIAHSの事務局が置かれていた高千穂町役場総合政策室の室長の甲斐宗之さん（現高千穂町長）も担当の田崎友教さんも共感してくれました。私も行政の方と深く話をしたのは初めてで、コンサルというのではなく、高千穂の住民、当事者として取り組みました。**金井** 当時、田阪さんは五ヶ瀬中等教育学校のSGH（文科省指定のスーパーグローバルハイスクール）に関わっておられたのですか。

田阪 はい、主体は学校ですが、後方支援を行っていました。五ヶ瀬中等教育学校は県立の中高一貫校で、生徒は全県から集まり寮生活しながら学んでいます。地元出身の生徒は少なく、GIAHSを教育に取り入れるには、地元の高千穂高校の参画が必要と考えました。高千穂高校には卒業生である町役場の田崎さんに働きかけてもらい、GIAHSアカデミーという有志の高校生が参加する活動を始めました（現在はクラブ活動に昇格）。

金井 世界農業遺産を教育に取り入れるとはどういうことでしょうか。

田阪 SGHのカリキュラムで地域を教材化して取り上げていましたが、GIAHS登録によりGIAHSの内容そのものを教材とすることができました。高千穂高校でもGIAHSで地域の魅力や課題を発見し、自信と誇りをもつことにより当事者意識を高められると考えたのです。

金井 それにより、単なる知識やスキルとは異なる、自ら意欲をもって学んでいく主体性が出てくるのですか。

田阪 この地域には、生き生きと営農している農家や、意欲をもって町の課題に取り組む役場の職員がいるのに、高校生との接点はほとんどありません。地域をテーマにした総合的な探究学習でその接点を作り、大人たちの本物の活動から学ぶのですが、世界農業遺産に登録されることにより、その学びがグローバルレベルで

普遍化され、学びが輝くのです。地域でプライドを持つて主体的に学ぶことにより、表現や思考力が鍛えられ、自分の進路についても深く考えるようになります。

金井 どのようなカリキュラムなのでしょう。

田阪 高千穂高校のGIAHSアカデミーは課外活動として取り組んでいます。地域の農業を体験学習するとともにSNSで発信したり、小・中学校へ行って出前授業をしたりしています。また、宮崎大学でGIAHSの意義について講義を受けたり、哲学が専門の梶谷真司東大教授に来てもらって、「哲学対話」を実施したりして、自分の言葉で表現して文章を書く練習もしています。GIAHS以外の別コンテンツでは、町の「まちなか案内所」において外国人への案内も行っています。

金井 五ヶ瀬中等教育学校ではSGHの指定期間が終了し、今年度以降の見通しはいかがですか。

田阪 SGHの次の段階の一つである「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に認定されましたが、この認定の評価ポイントは、探究学習の内容と、それを推進するコンソーシアムを学校の団体と組めるかということです。

内容についてはGIAHSを中心に据え、コンソーシアムは協議会（世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会）を中心に構成しました。さらに、この地域が世界農業遺産に登録されているので、地域の課題と世界の普遍的な課題とを連動して捉えるアカデミックな考え方もできるようになりました。

多くの学校では、探究学習の時間が受験勉強に取られて、中途半端になることが多いのですが、探究学習をやるなら徹底的に関わりないと、自分の生き方や進路に生きるものにはなりません。幸い大学入試でも難関校が少しずつ推薦・AO入試に重きを置くようになってきており、ますます五ヶ瀬中等教育学校や高千穂高校の取り組みが生き延びてくると考えています。

高千穂郷の未来を担う 高校生を育てたい。



高千穂町財政課
総合政策室 主事
田嶋友教さん

金井 GIAHSスタディツアーにはどのような狙いがあったのでしょうか。

田嶋 まずは地元高校生にGIAHSを知ってもらうことによりインナーブランディングを行い、彼らにシック・プライドと当事者意識を育むことを目的にしています。高千穂郷・椎葉山地域の当り前にある暮らしや見慣れている風景に、本物の価値があることに気づいてほしいと考えたのです。世界農業遺産をテーマに、高千穂高校ではGIAHSアカデミーという活動が立ち上がり、五ヶ瀬中等教育学校では授業カリキュラムに取り入れてもらっています。また、若い世代を対象に漫画を作ったり、町民向けのシンポジウムも開催したりしています。

金井 田嶋さんは大学卒業後、東京で外資系企業にも勤めた後、高千穂町役場にUターン就職し、世界農業遺産登録を担当したそうですね。

田嶋 高校を卒業し、町外に進学や就職をした後、高千穂町にUターンするということを意識している親や子どもは少ないと思います。私も小・中・高は高千穂町内ですが、当たり前のように福岡県の大学へ進学しました。在学中にオーストラリアやアメリカに留学した時、はじめて高千穂にはいい景色、いい暮らしがあるのだなと気づき、「いつか戻ろう」と心に決めたのです。大学卒業後、とりあえず東京で就職しようと東京で4年間勤め、故郷を離れて10年後に高千穂へUターンしました。

金井 田嶋さんは海外へ出てはじめて高千穂のよさがわかったと言われましたが、今回のスタディツアーに参加した地元高校生の感想はどうでしたか？

田嶋 世界農業遺産を象徴するような場所、椎葉の焼畑や五ヶ瀬の森林、高千穂の棚田を訪れ、現地で地元の方々の話を聞き、「自分たちの住む場所はこんなにいい所だったんだ」と気づいてくれたようです。今回のスタディツアーには、海外留学をしている日本人学生5名と日本の大学に通う学生3名が参加し、地元高校生への触媒役になってもらいました。彼らがこの地の農業のあり方に面白さを感じ、地元の農家や講師の先生に次々と探求的な質問を投げかけることに驚き、「地元を見る視点が変わった」という留学生効果もありました。長野県伊那の限界集落出身の早稲田大学の学生は、農林業で暮らす集落で育ったので、高千穂との類似性や違いについて高校生と話し込んでいましたね。

金井 地元高校生とメンター役の学生がファミリーという名の小グループを作り、学習時間以外も一緒に生活することで、高校生は大学生から色々なことを学べたようです。地元高校では世界農業遺産を継承し、地域を変えていく人材を育てることを重視しています。地域の若い担い手の動きはどうなっていますか？

田嶋 数年前に「宮崎ワケモン（若者）会議」を開催し、ここ高千穂で県内の若者70〜80人が集まって宮崎の未来について話し合いました。高千穂町内では、私の他に東京でイタリアンのシェフをしていた佐藤翔平くん

も町役場に入り、現在はNPO法人の代表理事として「高千穂郷食べる通信」やSNSで高校生記者とともに情報発信してくれています。

金井 最後に、町役場での総合政策室でGIAHSに関わる田嶋さんが描く地域の未来像について教えてくださいませんか？

田嶋 地元の高校を核として、地域の価値がわかる人を育成する「人づくり」を土台とし、観光と農業を未来に向けた産業として育てるという構想を描いています。今回のGIAHSスタディツアーで試行した棚田ウォーキングや焼畑見学、集落農業を支えるコミュニティの祭りとしての神楽、そして農泊などを組み合わせた世界農業遺産のアグリツーリズムも効果的な手法だと考えています。

高千穂町の政策としては、集落の農家を連携して法人化する「集落営農」が重要と考えています。法人格の集落で農機を所有し、用水路を管理することで、耕作放棄地をとりまとめて農業を続けることができます。世界農業遺産の地域をサステイナブルにする取り組みです。現在、町内10の集落で、まずは集落の課題や理想像などを住民で共有するためのワークショップを行っており、私が住んでいる中川登地区では、地域で初めて集落営農法人「高千穂かわのぼり」が立ち上がりました。このような中山間地域での農業を持続可能なものにするには、皆で協力して農業をしていくことが必須だと思います。

地元高校生には、卒業後の出口である進学・就職に際して、高千穂の農業と観光をして暮らしの未来を担う中核が自分たちであり、主導役になって町の未来を創っていくのだと意識してもらいたい。地元高校のカリキュラムのど真ん中に、GIAHSがあってほしいというのはいささかのことなのです。

琵琶湖の源流で

600年続く

お茶づくりを教材に。

取材・文／梶原千歳（本誌）

滋賀の「水の文化」として日本遺産に認定されている東近江市の奥永源寺地域では、近江三大茶の一つである政所茶（まんどころちや）が栽培されています。在来種の茶樹は室町時代から守り継がれ、集落全体で農薬や化学肥料を使わない伝統的な茶づくりが続いています。

そこには、「源流に住む私たちが水を汚しては、琵琶湖や川下の方々に申し訳ない」という心があります。全国の山村と同様に過疎化高齢化に直面する政所へ、この土地の文化と人に魅かれて移住し、茶づくりを担う「政所茶縁の会」代表の山形蓮さんがいます。山形さんに村人と協働して取り組む地域おこしの話を聞きました。

今回の取材は、特定非営利活動法人グローバルな学びのコミュニティ・留学フェローシップが主催する「滋賀サマーキャンプ」の地域探求学習



に同行したものです。今年の滋賀サマーキャンプのテーマは、「滋賀を知る。自分を知る。『やってみたい』に出会う夏」です。中・高生が、地域で活躍する方や現役海外大生との対話や実践型プログラムを通して、滋賀の魅力や新しい自分を発見し、マイプロジェクトを立ち上げ、主体的な進路選択の一助とします。

地域探求学習では、参加者が少人数に分かれ、琵琶湖の水保全に取り組む漁師や近江上布を継承する染織家など6名の働く大人に会いに行きました。政所では山形さんを訪ね、紅茶づくりを学びながら、600年

に亘り継承されてきた政所茶のことや仕事への想いを聞き、フィールドワークを行いました。



滋賀と三重の県境。鈴鹿山脈の渓谷に現れる政所。

山形蓮さんに学ぶ政所茶の心〜紅茶づくりを通して〜

今日は政所の二番茶で紅茶をつくりましょう。半日しかありませんが、自分で手づくりした紅茶を持って帰ってほしいので、しっかり頑張ってくださいね。茶摘みは、「夏も近づくと八十八夜〜」という頃にもある通り、立春から数えて88日に当たる5月に始まります。「一番茶（新茶）」を採ってから約40日経つと、二番茶が採れます。この辺りは以前は二番茶まで茶摘みをしていましたが、担い手の高齢化が進み、近年は一番茶のみとなっています。そこで私は二番茶を摘んで、紅茶をつくり始めました。

①一芯二葉を摘む

摘むのは、一芯二葉、茶樹の先端の芽と葉です。



②力いっぱい揉む

茶葉を布に包んで、洗濯板を使って、パンをこねるように揉みます。紅茶も緑茶も同じ種類の葉ですが、葉に傷をつけることで発酵が起きて紅茶になります。



③日光で発酵させる

よく揉んだ茶葉を黒いビニール袋に入れて、1時間ほど日光に当てます。発酵には25〜30℃が適温です。揉み具合で香りや形も微妙に異なる紅茶になります。

④温めながら乾かす

発酵の次は乾燥です。茶葉をほぐしながら素焼きの陶板に広げて、弱火で温めて水分を蒸発させます。乾燥むらがないように混ぜて揉んで。だんだんと香りが変わり、酵素が役割を終え発酵が止まっています。

さあ、出来上がり。お茶はつくる人の性格が出るんですよ。足し湯をして3回くらいは十分飲めるので、ご自宅でお茶の時間を楽しんで下さいね。ちなみに、玉露、煎茶、緑茶、番茶、紅茶、どれも同じ茶樹から



参加した野間美帆さん(中3)の感想

茶葉を揉んで傷をつけて、発酵させて、乾かして…とやっていく中で一つひとつの手順が人によってやり方が違っていました。「ほんの少しの違いでも仕上がりの香りや味が違う」と聞いて、お茶はこんなにも繊細なものなのかと驚きました。

山形さんは自分の職業に誇りを持ち、中心となる自分の考えを持ってらっしゃいました。ご自身の職業の利益だけでなく、どうすれば地域全体が豊かになるのか考えられていたので、広く物事を捉えられるような視点も必要だと気づきました。



らつくられるんです。玉露は育てる時に茶樹に葉を被せて、日光を当てないようにします。すると、少ない光で光合成を進めようとするから葉緑素が増えて、緑が濃くて香りと甘みに優れたお茶になります。焙じ茶は、どんな茶葉でも焙じれば焙じ茶です。ローストするという意味ですから。古いお茶は、焙じると香りが立って美味しく飲めます。

在来種・無農薬・無化学肥料の 政所茶はSDGsそのもの。



山形蓮さん

お茶は805年に最澄が唐の国から種子を持ち帰り、比叡山の麓に播いたことが発祥とも言われています。鎌倉時代に永源寺が開山し、5世の越後秀格禪師が霜や雪がひどくアワやキビなどの雑穀しかつくれなかったこの土地に茶の栽培を奨励しました。

川の朝霧に昼夜の寒暖差、水はけのよい土質と急斜面、美味しいお茶ができる要素がこの谷には詰まっています。川から上る朝霧は茶葉を霜から守ります。この土地育ちの茶樹は枝に粘りがあり、1m以上の積雪にも耐えます。

茶畑と言えば、長く整然とした畝を思い浮かべると思いますが、それは挿し木をして葉の形状を均一化した品種茶と呼ばれるものです。政所茶は全国でも2%しか残っていない在来種が多く現存しています。この土地に種を播いて芽吹いて育った茶樹が、毎年新芽を出して葉が落ちて。それを600年も繰り返してきたんです。現在の茶畑の茶樹は1000年ほどの樹齢があり、一本一本に個性があり味も微妙に異なり、どの木にも愛おしさを感じます。

畑に敷いているのはススキです。肥料には山で集めたススキや落ち葉、菜種油の搾りかすなどを使っています。政所では集落全体で長年、農薬や化学肥料を使わずにお茶を作ってきた歴史があります。こうした取り組みは、国連で進められているSDGs（持続可能な開発目標）そのものですが、存続の危機を迎えています。

幕府や朝廷にも献上された銘茶で、江戸中期には高級煎茶として全国に名を馳せた政所茶は、最盛期の明治時代には生産量が30トンもありましたが、現在はかろうじて25ヘクタール（最盛期の1/30）の茶畑が残り、1トンほどの収量です。奥永源寺地域の7集落約200軒のうち、70軒ほどが生産していますが、お茶だけで生計を立てるのは難しいのが現状です。

私は京都市で生まれ、2歳から滋賀県大津市で育ちました。滋賀県立大学で地域文化を専攻して、地域の方からいろいろな文化を学ぶことに魅力を感じました。大学院在学中は東日本大震災の被災地でボランティア活動をして、共助の力を目の当たりにしました。地域のつながりが強いところで暮らしてみたいと感じるようになった頃、大学時代の恩師から政所の地域研究についての実習を手伝ってほしいと声がかかり、この土地や人との縁が生まれました。やがて日本の原風景のような山と川、昔ながらの暮らしに惹かれるようになりしました。

奥永源寺地域は東近江市の中でも一番、過疎高齢化が進んでいて、集落の平均年齢は74歳です。80歳に近い方が、「先祖から受け継いだ茶畑を自分の代で絶やすわけにはいかない」と懸命に頑張っておられるのを見て、素人ながら何とか力になりたいと思いました。フィールドワークのメンバーである学生たちと一緒に「政所茶（チシヤ）茶」という任意団体を結成し、畑を借りて週末にお茶づくりに通い、地元の方と交流を深め

ていきました。

でも、所詮はよそ者という感覚が拭えず、お茶づくりも通うだけでは時間が足りませんでした。そんな時に「地域おこし協力隊」が募集されることを知り、移住を決め、応募しました。平成26年から3年間、1期生の隊員として政所茶の存続に取り組みしました。その間、同世代の仲間と立ち上げたのが「政所茶縁の会」です。コアメンバーは6名で、私以外はみんな政所の外に暮らし仕事もさまざまですが、政所茶が好きという気持ちは一緒。茶摘みやお茶会など政所茶のファンをつくるPR活動や茶畑の管理をしています。

「政所茶縁の会」はその名の通り、想いを未来につなぎ、ヒト・モノ・コトの縁を結ぶ会です。今では茶摘み体験やボランティアなどで関わってくださる方が増えてきました。滋賀県立大学の学生の活動は8年目になります。地元の農業高校である八日市南高校は2年がかりで手間のかかる玉露を復活させてくれました。

平成29年には「政所茶生産振興会」を発足しました。これまで生産者一人ひとりが販売や人手不足などの問題を抱えていたのですが、現在では約70軒全体で課題を共有して支え合っています。まだまだ先が明るいとは言えませんが、政所茶を次の世代へも存続させるために、今が最後の踏ん張りどころと、産地全体で一生懸命取り組んでいます。

先日、東京・中目黒のスターバックスで「日本茶のサステナビリティ」をテーマにしたトークセッションが開かれ、私もスピーカーの一人として参加しました。本社の社員の方が政所へ視察に来られ、ご案内もしました。オーガニックやビオの意識が高い欧米の生産者の方ややって来られるんですが、近々、私たちがアメリカのミシガン州へ行き、現地のカフェを巡って政所茶をPRする予定です。地道な活動ですが、少量でも「handoocha」の名前を外へ向かって広げていきたいと思っています。

生徒発のふるさと学習を 教科横断的にアプローチ。

取材・文 梶原千歳（本誌）

文科省の学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」が掲げられ、「総合的な探究の時間」では、「地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組」が推進されます。また、主体的・対話的で深い学びの観点から「何を学ぶか」とともに「どのように学ぶか」も重視して授業を改善することが謳われています。

今夏、石川県加賀市で「加州大聖寺藩 参勤交代うおーく2019」が開催されました。3年前、石川県立加賀聖城高校（夜間定時制）の生徒が、ふるさと学習を進めるなかで「大聖寺藩の参勤交代を再現したい！」と夢を抱いたことが始まりです。

加賀聖城高校の小谷邦博先生（地歴公民）は、「本校を含む加賀市の公立高校すべてが定員割れを起こしています。隣の小松市へ進学していただくんです。私は『学校こそ地域文化の発信地であるべきだ』と信じて教員生活を送ってきました。社会が変化するなかで、定時制高校の存在意



参勤交代うおーく

2019年7月29日～8月11日

加州大聖寺藩 参勤交代うおーく2019。

加州大聖寺藩 参勤交代うおーく2019

東京・日本橋から石川県加賀市の大聖寺までの540km、当時と同じ道程を2人1組で約20kmずつ、たすきをつなぎながら7月29日から8月11までの13泊14日で完歩する試みです。加賀市の4つの県立高校（加賀聖城、大聖寺、大聖寺実業、加賀）をはじめ、一般申込みや沿道の友情歩行も含めると1,000人を超える参加がありました。



義を再発信したい」と言います。「参勤交代うおーく」を盛り上げるべく、その前哨戦として7月21日（日）、石川県立加賀聖城高校にて「参勤交代を科学する」をテーマに「地域連携教科横断プロジェクト型学習」が行われました。英・国・数理・社・体の6教科6名の教師と「仮想の学校平和町高校」を創設し、教科横断実践に取り組み前田健志先生のもとに、加賀・金沢・福井の国公私立7校から25名の生徒が集いました。同校第2弾となった授業の当日の様を追います。

「参勤交代を科学する」参勤交代うおーくを盛り上げよう」授業の流れ

朝礼 英語

重松 佳樹先生（東大赤門ゼミナール）

重松 グッドモーニング！（以下、英語を意訳）皆さん、初めて顔を合わせると思っているので、授業に入る前にすこーくでアイスブレイクしましょう。今日は本物の古銭を用意しました。サイコロを振って、銭をもらったり払ったりしながら、日本橋から大聖寺を目指しましょう。

生徒 日本橋、蔵（わらび）、桶川、熊谷、本庄……。えっ、忍者が出てきて5枚も盗られるの？ 高崎、松井田、軽井沢、小諸でソバを食べて1枚払う。お金なくなる！

重松 English, please.

生徒 大聖寺、very far!

重松 参勤交代を外国の方に説明するのは、なかなか難しい。すこーくで遊びながら紹介してみてください。

1時間目 数学

村上孝有先生（私立金沢高校）

村上 令和の参勤交代うおーくはさまざまな課題があるなか、目前に実施が迫っています。江戸時代の大名もたくさん悩みを抱えていたと思います。過去と現在を対比して、数学的な力を使って課題を整理し、令和のヒントにしたいと思います。

まず、江戸時代はどんな問題があったと思いますか？ 青色の付箋に書き出して下さい。スマホを使ってもいいですよ。大切なのは質よりも量。こんなこと言ったらバカにされるかなとか、恥ずかしいかなとか、まったく関係ありません。批判は厳禁。空想でも調べたことでも、とにかくたくさん書いて。

では次に、今回の参勤交代うおーくの課題を黄色の付箋に書き出して下さい。うおーくで実際に歩く人も



この中にいると思います。歩き手として、あるいは責任者や保護者の立場なら、どんな不安がありますか？

青も黄色もたくさん出てきましたね。では、班で共有して似たような付箋を重ねて下さい。そして、グループで発表していきます。ここで、数学の力が発揮されます。数学で習った「集合」の概念を使って整理しましょう。（中略）

江戸と令和の参勤交代、それぞれの課題を洗い出すなかで、重なっているところがありましたね。当時の方がどのように参勤交代を成功させたのか、歴史を知ることと令和の課題解決の糸口が見つかると思います。

2時間目 地歴公民

宮崎 嵩啓先生（金沢大学附属高校）

宮崎 参勤交代の過去と現在に通じる課題、いっぱい挙がっていたね。何があった？

生徒 熱中症、荷物が重い、人手が足りない、お金がかかる！

宮崎 うん、そうだね。ちょっと想像してみよう。今日、みんな、ここまで来て来た？ 参勤交代して来た？

生徒 またまた先生。

宮崎 江戸時代はもちろん車も電車もないよね。人間は1日どれくらい歩けると思う？

生徒 40 km？ 200 km？

宮崎 ここ加賀聖城高校から金津高校（福井県）まで13 km。小松市から来た人いる？ そこまで25 km。金沢から来た人は？ 45 kmだね。歩ける？

生徒 無理、無理。

宮崎 日本橋

から大聖寺まで540 km。

14日で参勤交代してたら

から

生徒 1日38

km。きつ！



宮崎 キツイよね。なんで昔の人たちはそんなに根詰めて歩くの？ 日数かけちゃだめ？ 日数かけると、どういことが起こる？

生徒 宿代がかかる。

宮崎 大聖寺藩は3000人程の行列で、3000人が1泊すると、今の貨幣価値で1000万円かかっていました。

生徒 うへー！

宮崎 もう歩くしかない！

この後、授業は「持参すべきアイテムを10個厳選せよ！」、そして「そのアイテム、江戸時代にもあった？」と展開され、ラストは「荷物をできるだけ軽くするための先人の知恵」で締められました。

3時間目 理科

東 東拓郎先生（石川県立金沢錦丘高校）

導入

東 今日日は体を動かす理科です。参勤交代では自分の荷物だけじゃなくて、いろいろ運ばないといけないよね。両手で重いものを持つのは、結構きついと思います。そこで考えられたのが、天秤棒です。今日は、実際に天秤棒を作ってみましょう。

私の義父母は能登の出身で、若い頃、天秤棒で魚を運んでいたそうです。義父母が当時と同じ竹棒や紐、



袋を用意してくれました。魚の代わりは、砂袋（1kg×3）です。3つなので、左右の天秤がアンバランスになると思います。紐の長さ、紐をかける位置、担ぎ方、これらを工夫して、5班に分かれて最も楽に担げる天秤棒を競いましょう。（中略）

まとめ

東 一番優秀だった班の天秤棒を力学的に分析します。前に出てきて、肩から紐を吊るしたところまで、左右の長さを図ってみます。感覚で楽なポイントを探していったと思うけど、左右が等しいところが一番負担がからないポイントとなります。砂袋を吊るした紐の長さ、これは実は関係ありません。大事なのは力の大きさと左右の長さ、なんだよね。そしてもう一つ。今、肩に3キロ

かかっていますが、左右の紐を両手で持つと負荷が分散されます。両手で持つことで、上向きの力を足している。みんなもやってみて、劇的に変わるから。

4時間目 保健体育

神保 神保徹先生（石川県立寺井高校）

神保 体育と参勤交代、一体何のつながりがあるんだろう？ そう、答えは一つ、歩くこと。この絵を見て、どんな風に歩いている？ 右手右足、左手左足が一緒に出るね。長い距離を楽に歩く、日本古来の「なんば歩き」です。2軸で歩くことで体にかかる負担がかりません。

江戸時代までは誰もがこの歩き方でしたが、明治になり日本軍がイギリス軍の歩行方法を取り入れるなど、日本人の歩き方が西欧化しました。でも、現代において「なんば歩き」を活用して記録を残した陸上選手がいます。短距離の末續慎吾選手やマラソンの高橋尚子選手です。

また、東京の公立高校バスケット部は「なんば歩き」を取り入れたことで、インターハイ出



場を獲得しました。じゃあ、歩いてみよう！ 腕はあまり振らずに、重心は一定に。

5時間目 国語

坂本 坂本侑大先生（福岡県立金津高校）

坂本 今日の学びを盛り込んで「参勤交代うおーく」を盛り上げるためのリーフレットを作成しよう！

リーフレット表

坂本 まずはターゲットをしっかりと考えて。誰に渡すと盛り上がるか、男性、女性、中学生…。ターゲットは何を求めている？ 伝えたいことは何？ 日本語と英語でキャッチコピーを作って、外国の方にもアピールしましょう。（坂本先生と重松先生から、日英の広告やキャッチコピーの例が多く示されました）

リーフレット裏

坂本 ワークシートに各教科で学んだことや感想をまとめて、そこからリーフレットに掲載したい情報を精選しよう。

5名5班に分かれてグループワークが持たれ、班ごとに配られたiPadで写真を撮りに外へ出かける班もありました。出来上がった作品は班ごとにプレゼンが行われ、1番に選ばれたリーフレットは実際に印刷して外国の方にも配られました。

学校教育を変革せよ！ 地域に開かれた学びのつくり方。



仮想の学校 平和町高校
前田健志先生

公開授業「参勤交代を科学する」は、「楽しい学校・教員コンサルタント、Second」の前田健志先生が責任者を務める「仮想の学校、平和町高校」の実践です。平和町という名前は前田先生が9年勤務した金沢大学附属高校がある町名にちなんで名付けられました。

平和町高校は仮想なので、所在地はありません。ここでは学校の制約や教科を超えて教員が本当にやりたいと思う授業が高校の学習範囲内において自由に作られ、その授業を受けたい生徒たちが自主的にやって来ます。

授業者として「仮想の学校、平和町高校」に参加を希望する教員や教育関係者は30人を超えて増え続け、楽しい学びを追究する教員ネットワークが構築されつつあります。授業は、毎回のテーマによって異なる教員編成が組まれています。

今回の授業は朝9時から夕方4時まで行われ、6人の先生方が異なる教科からの視点で「参勤交代」にアプローチしました。高校生たちは他校生と初めて顔を合わせ最初は緊張の面持ちでしたが、先生方の熱意に引かれ、教室は徐々に熱気を帯びていきました。

生徒たちが国公立の枠組みを超えて交流する機会も多くなさそうです。この場へ来なければ出会うことのなかった高校生たちが対話をし、多様な発想や考え方に触れ、刺激を与え合いました。参加した高校生には「参勤交代うおーく応援アンバサダー」としての活

躍が期待され、実際に「加州大聖寺藩 参勤交代うおーく2019」の一部を自分の足で歩いた生徒もいます。今夏のプロジェクトで自分自身に自信を持った生徒もいるでしょう。高校生活での特別な一歩になったことは間違いありません。

地域と連携する学校は、どう創るのか？

梶原 教育改革では「社会に開かれた教育課程」ということで、昨年8月に「地域との協働による高等学校改革の推進について」が通知されました。地域コミュニティでは福祉・防犯・防災を基盤とした自治が進みつつありますが、担い手自体の不足が叫ばれ、地元の学校との連携を目指す動きが出てきています。

前田 「地域連携しろ」と上から降ってきてやらされたら、生徒も先生もやる気を失いかねません。堅い感じもしますし、まずはお互いを知って楽しむところから始めないと上手くいかないと思います。

僕は金沢大学附属高校へ赴任した時、石川県には一人も知り合いがいませんでした。仕事やプライベートで飲みに行く中で、だんだんとマイ・コミュニティができていきました。そのうち附属高校の先生方とせつなくなれば地元で飲もうと、平和町の居酒屋へ行くようになりしました。通ううちにマスターと仲良くなり、常連さんと話が弾み、面白い人を紹介してもらいました。そうして「一度授業に来てくださいよ。楽しい授業を心がけているので、来て思うことを何でも言ってく

ださい。どんな意見でも拾ってみせます」と誘って、地域の方に授業へ入ってもらいました。昔は誰でも学校に出入りできましたが、今は厳しくなり学校のハードルが高くなってしまっています。まずはこのハードルを下げることから始めました。

梶原 私は大阪市で地域コミュニティの活動にも関わっているのですが、高校生を地域に迎え入れて、地域の防災訓練に関わってもらおうのがいいのか、それとも盆踊りなのかと考えていました。

前田 それもいいですが、なかなか生徒に火がつかないような気がします。まだ堅い感じがしませんか？僕は、地元の方を授業に招いて、クラスを盛り上げて、「総合的な学習の時間」の地域課題研究の審査員になってもらったりしながら関係を築いていきました。

その後、平和町のハロウィンイベントに生徒がお化け役で参加したり、今年行った平和町清掃には50人の生徒が有志で集まりました。心理的ハードルを少し下





公開授業「参勤交代を科学する」のメンバー。左から前田先生、宮崎先生、東先生、坂本先生、神保先生、村上先生。



黄門様に扮して生徒の緊張を解した重松先生。

げてあげること、イベントへの参加率は非常に上がりました。そもそも子どもはイベントが好きです。そうやってハードルを下げた後、一緒にできることを増やしていったんです。

今年度には地元や企業の方と生徒がチームを組む「平和町プロジェクト」が始動しました。チームで現実の課題に向き合い解決していきます。大人の方には何かあった時、生徒を叱って頂いて大丈夫ですと伝えてあ

ります。生徒にとっても教員以外の大人にちゃんと叱ってもらえることは勉強になりますから。

梶原 平和町プロジェクトのコーディネーターやファシリテーターはどの方が担っているのですか？

前田 附属高校にのつての外部人材にあたる僕がやっています。コーディネーターやファシリテーターは第三者がいいと思います。何事も内部のみでやると、利害関係やプライドなどが邪魔して上手く進まなかったりします。

教科横断・課題解決の カリキュラム・マネジメント

梶原 事業主名の「Second」には、子どもたちと接する先生をファーストと位置づけ、リングで戦うボクサー（先生）をセコンドとして助ける、という意味が込められているそうですね。「先生を助ける」とは、具体的にどういうことですか？

前田 助けることは、教員も生徒も楽しいと思える学校をつくること、つまり「生徒の心に火をつける」教育活動をサポートすることです。ある高校の地域課題を研究テーマにした「総合的な探究の時間」では、「全人類がリサーチャー！特定せよ」という関西テレビの番組をヒントに、子どもがわくわくするミッションを提案しました。

授業案を作成した先生たちの思いやポリシーをそのまま残しつつ、生徒にどのように火をつけるかアドバイスしています。教員のねらいを噛み砕き、子どもを刺激する探求的な学びに落とし込んでいく作業が、教育コンサルタントである僕の仕事の一つです。

梶原 文科省が発表した新学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントにより、教科横断的・課題解決的なアプローチが求められています。しかし、学習指導要領にはその方法論は示されていません。現場の教員には戸惑いや動揺が広がっています。

前田 今年3月、「仮想の学校平和町高校」の第1弾となる「コンビニを科学する」平和町に理想のコンビニを創ろう」を行い、5教科5名の教師と4校20名の生徒が金沢大学附属高校の教室に集いました。

高校生にとつて身近なコンビニをテーマに、社会的アプローチなら価格決定のあり方について学んだのです。数学的アプローチなら利益を最大化する陳列を考える。理科的には視野角や目の構造、英語的には外国人目線からよりよいコンビニを提案する。国語的にはポップと言葉の凝縮について…と多角的にコンビニを科学します。授業は計3時間30分、生徒の目は輝きました。「次は丸一日、いや合宿で」というほどの反響がありました。

この学びを受けて、生徒たちは普段の授業も他教科とつながるのではという視点で受けるようになります。有機的・構造的な学びを自ら行うようになります。1回で学べるコンテンツは限られていますが、学び方は確実に変えられると思います。総合的な学習の時間と各教科の授業の中間的な役割を担える可能性があります。ただただだけでなく、各教科が中心テーマにアプローチしているコアカリキュラム的な実践なのです。

生徒の関心事にアンテナを張る

前田 楽しい学びをするために大切なことは、マーケティングによって生徒の興味関心を把握する力です。生徒に火をつけられる先生は、普段から生徒が何に興味を持っているのかにものすごくアンテナを張っています。観察したり質問したりして生徒のことを知ろうとする。相手の関心を把握した上で、どうやったら彼らの関心事と学んでほしい事をつなぐことができるのか。すべての教育活動において、生徒の興味関心を皮切りに学習指導要領で提示された単元にアプローチし、ただの面白いを超えた「わくわくする気持ち」を引き出すことを大事にしています。

クラス全員が探求のスペシャリスト。 「知的であることはカッコいい」と切磋琢磨する教室。

甲南高校「グローバル・スタディ・プログラム」

取材・文／金井文宏（本誌）



「科学的な知識は、書物の上でも独習ができるが、真の人間教育は、人格の触れあいによってでなくては、完全は期せられない」

甲南学園の創立者である実業家、平生弘三郎の言葉です。明治・大正時代の知識偏重の画一教育に対し、「ひと創り」という本来の教育を重視しました。

2010年度、甲南高校では「グローバル・スタディ・プログラム」が創設されました。当初は高校3年間のプログラムでしたが、2016年度からは中学3年生から始まる4年間に延長されました。その1期生を担当する澤武潤子先生たちのチームは、同プログラムの「グローバルリサーチ（課題研究）」のテーマに「SDGs」（持続可能な開発目標）という枠組みを設定しました。

高校3年生の1期生31名は、各自こだわりの視点でSDGsに取り組み、論文を完成させました。その中で現場重視のフィールドワークを行い、精度の高い論文に仕上げた3名の生徒にインタビューをしました。

身近な気づきを研究テーマに。

金井 私は研究発表大会で「まちづくり分野」のコメントーターをしました。コンテントも文献調査、フィールドワーク、インタビューをして説得力のあるものだったと思います。まずは皆さんの研究テーマとそのテーマを選んだ理由や動機、それに研究方法を聞かせてもらえますか。

清水 私は「非正規雇用」をテーマに研究しました。今から約10年前、



「甲南グローバルリサーチフェア」のコメントーター。

小学生の頃にリーマンショックがあり、非正規雇用の人が多く解雇されました。その人たちは、寮などの住居からも追い出され、ホームレス化し、支援者と一緒に派遣村を作ったり、相互扶助をしているというニュースもテレビや新聞で見ました。

その頃、外資系の保険会社に勤めていた父が、2部門あったうちの1つの部署がなくなり、雇用が大変だと話すのを聞いていました。このことがずっと印象に残っていたのでテーマにしましたが、リサーチが週1回しかないので、探究を「非正規雇用をNPO等の民間の力で解決できないのか」に絞り込みました。

インタビュー調査では、総合労働センターを訪問し、職員の方から「正規雇用の仕事をあつせんするだけでは解決できない」ということを聞きしました。そこで技能のミスマッチや、労働意欲などを考慮する必要性を学びました。

田上 私は「日本の戦災と戦後補償」をテーマにしました。祖父が米軍による大阪空襲の被災者で、幼少の時からその話をよく聞かされていたので、小学校の時から調べていました。が、今回は大阪の空襲と沖縄戦について調査研究しようと思いました。

私たち若者は戦争は過去のもの

思っていますが、実は現在にも続いているものです。大阪空襲への補償を国に求める大阪空襲訴訟原告団・支える会の活動を知りましたし、多大な犠牲を生んだ沖縄戦に関する展示会では、実際に沖縄戦の遺品（ランチャー弾等）を見ました。

松田 「廃棄家電」というテーマを選びました。携帯電話が故障した時に、「修理に手間と費用がかかるので、新しいものに替えてはどうか？」と言われたのが疑問だったのです。かつて父にiPhoneを壊された時は自宅で業者が修理してくれました。そこで、今回は自分で直そうと部品を買ったら修理できた。それならば、修理されずに廃棄される家電はどうなるのだらうと思ったのです。

中でも、レアメタルなどの貴重な金属資源を使っている携帯電話などの電子部品の廃棄がどうなっているのかをテーマにしました。そこで、父と一緒に現地調査のためハードウェアのシリコンバレー・深圳へ行きました。深圳は電子部品関係の企業が多く立地し、新しいことに取り組むベンチャー企業が多く、中国政府が最も多く投資を行っている都市で、金融機関が集まる中国のマンハッタン建設も行われています。

しかし、家電の処理ルートを追

跡し、工場まで行ったのですが、中には入れてもらえませんでした。タクシーの運転手に「日本から送られた廃棄家電はどう処理されているの？」と聞くと、香港が受入窓口になり、それから中国本土の都市へ運ばれて処理されるということでした。

研究を進める中での課題

金井 調査研究するにあたって、乗り越えなくてはならなかった壁はありましたか？

清水 非正規雇用の問題を論文文化する際、読者に納得してもらうための客観性が重要だと考え、多くのデータに当たり、社会階層や年収などを調べ数値・グラフ化し、論証しています。そのため、苦手だった数学を勉強する必要に迫られ、証明問題を解いて探究力をつけるなどしました。おかげで証明の面白さがわかりました。

あと、私はフィールドワークがあまりできていなかったので、ま

ずは甲南中高の非正規有期雇用の職員の方の声を聞き取りました。部活の弓道が続けながら、空き時間に調査研究するのは厳しかったのですが、なんとか論文を仕上げられて達成感があり、嬉しかったです。

金井 数学を頑張ったんですね。非正規雇用問題について問題解決の方向性は見えましたか？

清水 非正規雇用の問題に取り組む自分の活動を地域で認知してもらい、同じ活動しようとする人を増やしていこうと思います。阪神間の



リサーチフェアでのプレゼンテーション(高2)。



左から清水優輝さん、田上一平さん、松田流星さん。

企業にも非正規雇用の解決を呼びかけたいと思っています。大学では労働や雇用問題を研究するため、経済学部に進学しようと思っています。

また、活動を持続するためにNPOとしてどうすればいいのかを調べています。派遣労働者を紹介する会社はあっても、非正規雇用の問題を改善しようという新しい価値観が浸透していません。

将来の進路との結び付き

金井 調査研究の今後と大学などの進路について、田上さんと松田さんも教えてもらえますか？

田上 社会科は中学校の時に暗記モノだと思っていたのですが、グローバルリサーチをやるようになって、ものごとの関連性がわかるようになって面白くなりました。特に、戦時下におけるマスメディア、特に政府とメディアの一体化やプロパガンダについて関心を持つようになりましたね。

また、戦後の民間人への補償については、ドイツは軍人／軍属／民間人の区別なく補償していることがわかり、もっと調べたいと思っています。日本は軍人、軍属に6兆円くらいの補償をしながら、「民間人は公平に受けた被害だから受忍せよ」、つ



リサーチフェアでのポスター発表（高1）。

まり助かったからいいのではないかな、という政府や司法の判断があります。日・独の比較を通して、日本人の民族性についても考えたいと思っています。

今回の調査研究で、行動すること、主体的に考えることが重要だと分かりました。大学では法学部政治学科で勉強したいと思っています。

松田 廃棄家電など環境問題のことを調べていて、海外でも有名になっている日本人の「もったいない」文化に興味を持ち、日本におけるこの文化のルーツを探りたいと思っています。自分の行動としては、コーヒードと提携して週1回の「リベアカフェ」を開催し、得意な携帯電話の

分解修理を引き受けるとともに、北欧のリベアカフェでも行われている地域のコミュニティづくりを目指したいと思っています。

「廃棄家電の行方」というテーマに関しては、最終的な受け入れ先としては、広東省の汕頭市グイユ村が電子部品のリサイクル、「ゴミの街」として有名です。村は長年の分解回収から生じた重金属・プラスチック類のゴミで、川や土壌などが汚染され、健康被害が生じていると聞いています。こうした問題に関連する授業は高校にはありません。大学へ進学して環境情報学部などで学びたいと思っています。

今回、クラスみんなで調査研究をしてよかったことは、他の人の発表を聞いて、わからなくて気になったことがあれば、その人に聞けばいいということです。私もフェアトレードを調べている友達に、「プロックチェーンと連携してやるとうまくいくのでは？」とアドバイスをしました。自分の調査研究だけでなく、他の人のテーマを知ること、多くのことに興味が湧くようになりました。

金井 なるほど、クラスの全員が研究している総合研究所のようになって、研究員同士が議論している感じ

なんです。

松田 甲南は中高一貫で、中3時からこのプログラムに入り、1クラスなので仲がいいんです。他のクラスメートの発表を見て「これだけやってるんだ。この論文すこい」と素直に思うし、逆に互いの論文を回して、添削し合って、ボロカスに議論し合うこともあります。自分が不安に思っている調査研究の穴を突かれることもあります。週1回、図書館で取り組む2時間は刺激的な時間になっています。

田上 クラス31人全員が違うテーマで取り組んでいるので、全員がその問題のスペシャリストになれる。それをベースに違うテーマへと次々に話題が広がり、日常の会話レベルが高1の時よりずいぶん上がりました。

清水 それまでは話していなかったような社会問題を話すようになり、図書館の中でワークするので、互いに話し合う時間も増えました。貿易や鉄道など、自分の研究でも使えるような研究分野があり、クラスメートの話を熱心に聞くこともあります。一つ一つが個性のあるテーマ。研究なので面白いです。どんどん教養が広がっていく感じですね。

生徒の関心と意欲を引き出す学びのデザイン。



甲南高校
澤武潤子先生

中学3年時に「アドバンスコース」に在籍する生徒の中で、グローバルプログラムを選んだ31名を対象に、「グローバルリサーチ」という授業を展開しています（高111単位/週1回/1時間、高212単位/週1回/2時間、高312単位/週1回/2時間）。

高1では、阪神・淡路大震災の震災復興をテーマに文献をリサーチしたり、フィールドワークやインタビュー調査をして、調査研究の基本的な手法や調査マナーを身に付けるようにしています。また、国語科の「言語技術」、社会科の「グローバルヒストリー」など関連する授業も学びます。

それを受けて高2・高3では、生徒各自が国連のSDGsの取り組みの中から自分でテーマを選んで、調査研究を行い、論文にします。

当初は生徒のテーマが多岐にわたり、「内容の指導ができるかな？」という不安がありました。が、教員の仕事は生徒のファシリテーションであると割り切り、内容の指導は区切りごとに甲南大学の教員を含めた外部の専門家に委ねることにしました。

今日集まってくれた高校3年生は、グローバルプログラムの1期生で、私が高3から持ち上がった学年の生徒たちです。高2の4〜6月に「SD

Gsとは何か？」という授業を行い、生徒はそれを参考に7月末までに研究計画書を出します。9〜11月は毎月1回進行中のレポートをメールで提出させ、チェックやアドバイスをします。12月に研究発表大会を開催し、生徒は分科会に分かれ、中間報告を発表します。一般の方も参加できるもので、外部の専門家や父母、クラスメートから批判やコメントをもらいます。

甲南の生徒は、親が中小企業や自営業をしている子弟が多く、コミュニケーション力やプレゼン力は結構あると思います。ところが、内容を深める努力をしないので、「研究発表大会でちゃんと発表したい。ええかった」というモチベーションによって内容を深めさせています。

この大会で発表した後は、「知的であることはかっこいい」という価値観が強くなりました。さらに、その後の1〜3月には短期留学（アメリカやニュージーランド）に参加します。海外の高校生が授業で自分の考えを述べ、将来についてしっかり考えている姿に刺激を受け、その価値観をより確かなものにしてほしいと考えています。

立命館大学稲盛経営哲学研究センターの教育・研究をリードし、京セラ・KD D・J・Aと盛和塾塾生企業との共同研究の橋渡しに精一杯尽力されていた高津正紀客員教授が、北京大学へ出講中の8月23日にお亡くなりになりました。いつも熱い想いを胸に秘めつつ穏やかな表情で私たちセンターの研究員に、稲盛哲学を説いて下さった高津先生、そのお姿が今でも目に浮かびます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は近年、中国企業での稲盛経営哲学の普及に関心を持たれ、本年3月にも昨年の盛和塾世界大会で最優秀賞を受賞された中国・深圳の技研新陽有限公司を訪問し、郭文英総経理（社長）をはじめ社員の方々との交流を深められました。ここに掲載する高津先生のコメントはその時のもので、先生の稲盛哲学に対する考え方がよくわかります。

企業経営に大切な 稲盛哲学4つの柱。

稲盛経営哲学研究センター 客員教授
高津 正紀先生
中国・深圳の技研新陽有限公司にて

技研新陽さんのお話をうかがいましたが、実は私が考える切り口が4つあります。かねがね稲盛名誉会長が「企業経営ではこれが大切なんだ」と言われているからです。

1つ目は、企業の「ミッション、使命」ということなんです。私たちの企業が何のために存在をしているのか。誰のために存在しているのかというところが明確になって、それが全員で共有されていることです。この点は技研新陽さんは素晴らしいと思います。郭総経理から「愛」というキーワードが明確に打ち出されていました。



技研新陽・子会社前での記念写真。



京セラドキュメントソリューションズ石龍工場にて。



女性社員の質問に答えた後で。



「コンパ」で語る高津先生。

2つ目は、英語で言えば「ビジョン」。何を目指しているのか。技研新陽さんが「100年技研新陽」とおっしゃいましたよね。どういう姿に向かって進もうとしているのか、それがやはりみんなに共有されている。これが2点目ですが、これも明快地に技研新陽さんには存在しているんだと理解いたしました。

そして3つ目が「哲学・フィロソフィ」なんです。稲盛哲学を学習されたのは4年前、まだ学習を始められて5年ということでしたけれども、資料の冒頭にもありましたように、その前にやはり中国で大切にされている「家族を大切にすること」という文化が一つ存在している。その上で、郭総経理もそれを大切に思われて、実現しておられる土壌があった。究極的には「関わりのある社員みんなが幸せになる」ということを望まれている。そのために「自分たちは結局何をしようか、何をしなくてはならないのか、どうあるべきなのか」ということを追求されて、今日の技研新陽さんになっているわけです。

実は私、今日ここへ来て非常に懐かしい気持ちでした。私が京セラに入社したのは1979年、今から40年前です。京セラはまだ売り上げは1000億に届かない、従業員1500名ぐらいの会社でした。今の技研新陽さんよりもまだまだ小さかった当時、稲盛名誉会長は頻りに工場に來られて、自分の考えを述べていかれたんですね。

その時はフィロソフィ手帳なんかできていません。本当に名誉会長の生の言葉で話しかけられて、「トップが自らどれだけの機会を多く設けて、自分の思いを語っていくか」ということを強く意識されていた。技研新陽さんでは後から稲盛哲学を取り入れられましたが、郭総経理が直接話をされるということもあって、ベースや素地はきちんとできています。

最後の4つ目はシステムです。これは今日も非常に実践が大切だとおっしゃっておられましたね。企業の目的がはっきりし、目標も見えて、そしてこう考えるべきだということが固まった中で、それを現実的に日常の仕事の中でどう生かすかという仕組みが必要です。京セラではアメーバ経営だけなんです。アメーバ経営というものが本当に機能して、業績を上げているんです。技研新陽さんの場合は、アメーバ経営の前にTCC活動をやっておられて、全員で知恵を絞り、成果をあげている土壌がある。だからこ

京都・伏見の商店街で育まれた 高津先生の人間力

核家族が増え、近所付き合いが希薄になり、子どもたちが異質な人と交わる機会が減っています。昔は近所に住んでいるいろいろな考えを持った人たちと接する中で、「多様な人がいる」ことを意識なくも学べたのです。私も商店街で育ち



伏見大手筋商店街。

ましたが、近所には怖いガンコ親父がいて、子どもたちは悪いことができませんでした。モノの貸し借りもしょっちゅうで、濃密な人間関係が当たり前のようにありました。このように人と関わりコミュニケーションをする中で、真の善意や信念、他人への思いやりなど「人間力」が養われていったのではないのでしょうか。社会人になると、「人間力」はさらに重要になっていきます。初めて出会う仲間と良好な人間関係を作り、一緒に課題にチャレンジしていかなければいけないのですから。

(『RITA』1号対談での高津先生の発言より)

のシステムもクリアしていってほしい。じゃあ、あと何をしていくのか。技研新陽をさらに発展させるには、次の幹部層の教育を、郭総経理の思いを継いで一心同体となって、次の世代に手を打っていきける片腕、右腕になるような人を育てていかなければなりません。そのために「経営12カ条」を学習テーマの一つとして取り上げてやっていけるのは非常にいいと思います。京セラも負けてはいられません。お互いに稲盛哲学を実践する企業として、日中切磋琢磨して、いい所を学び合いながら、ぜひ発展していきたいものだと思いました。以上が私の感想です。

京セラ、KDDI、JALグループを哲学経営で率い、盛和塾塾長として中小企業経営者を育ててきた稲盛和夫氏。このシリーズでは、経営者や社員のみならずが稲盛哲学をどのように咀嚼し、自分のものとしているのか、仕事での実践に基づいたお話をうかがいます。

マイ・フィロソフィ

「敬天愛人」

経営理念「企業活動を通して、
信頼される立派な人間をつくる」

技研新陽有限公司
董事總經理（社長）
郭文英さん



2018年の盛和塾世界大会・経営体験発表で最優秀賞を受賞したのが、深圳盛和塾に所属する技研新陽有限公司の董事總經理（社長）郭文英さんです。

日本語の通訳として技研新陽に入社した郭さんは、その後、品質管理の業務も兼任。仕事に対する熱い情熱と懸命に業務をやり抜く姿勢が社内外から信頼を得るようになり、技研新陽副工場長、工場長を経て2010年、技研新陽グループの董事總經理に任命されます。

就任後しばらくは高成長の波に乗り、順調な経営が続いていましたが、リーマンショックを契機に情勢は変化。経営者として悩んだ郭氏は人材教育を重視するべきだと考えるようになり、そのような時、上海で盛和塾の報告会に参加する機会があり、経営者たちの体験談を聞き感

動したことがきっかけとなり、2015年5月、盛和塾に入塾。同年8月には、深圳盛和塾設立を果たし、理事長に就任しました。

技研新陽の経営理念は「企業活動を通して、信頼される立派な人間をつくること」。社員を「家族」と呼び、兄妹、姉妹、子どもと同じように「愛」を注ぐ経営を心がけておられます。郭さんは、「天を敬い、人を愛す」の精神は、私の心と身体に溶け込んでいます。私自身が敬天愛人の受益者であり、さらに新陽家族も受益者とならなければなりません」と語ってくれました。

ただ、技研新陽の「愛」は厳しいと言います。「稲盛塾長も『小善は大恩に似たり』と言われています。人を最優先にして、愛で高い経営をめざす。弊社の愛は甘やかす愛ではなく、厳しいものでもありません」

技研新陽では、この「敬天愛人」を「人

間性を大切に
する家文化とリー
ン（効率的）改善の匠文化」へと発展させ、

2008年には独自のTCC活動※へと定着させてきました。郭さんは、稲盛経営哲学への理解が深まれば深まるほど、技研新陽の企業経営に顕著な変化が見られたと語り、社内教育を熱心に進めています。

全社員は「6つの精進」体験コースを3日間受講し、各TCCで朝礼の前に稲盛氏の著書「生き方」を朗読し、感想を分かち合います。この稲盛哲学の持続的な学習と実践を通じて、「人間として何が正しいか」を基本的原則として自分の行動を判断し、感謝と利他をより深く理解するようになったと言います。特に幹部こそ率先して学ぶことが重要だと考え、それに基づいたカリキュラムを組みました。郭さんは「一生、稲盛氏のフィロソフィを学び、実践していきたい」と社員に伝えています。

※TCCとは：TEAM CULTURE CIRCLE（チーム文化活動）の略。日本で生まれたTCCから発展させたもの。

RITA LABO は、稲盛経営哲学研究センターの教育実践研究部門として、利他の心を軸に、教育の未来を切り拓きます。

利他ラボ RITA LABO <http://www.ritalabo.jp>



お問い合わせ: contact@ritalabo.jp

facebook

rita labo 検索

発行: 立命館大学 OIC総合研究機構 稲盛経営哲学研究センター RITA LABO (リタラボ) 大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

編集人: 金井文宏 デザイン: 坂本佳子、齋藤直己 2019年12月15日発行